

論文要旨

氏名	河端 和音
タイトル (日英併記)	Prolonged Blockade of the Cervical Sympathetic Nerve by Stellate Ganglion Block Accelerates Therapeutic Efficacy in Trigeminal Neuropathy 星状神経節ブロックによる交感神経遮断時間が三叉神経ニューロパチーの治療効果に及ぼす影響
論文の要旨 (日本語で記載)	
【目的】 三叉神経ニューロパチーは外科的矯正手術術後の術後合併症のうち最も頻度が高く、長期間の感覚鈍麻は患者の quality of life(QOL)を低下させ、さらには神経障害性疼痛に移行し治療抵抗性を示す可能性が指摘されている。そのため、早期の神経再生や機能回復は特に重要である。星状神経節ブロック(stellate ganglion block: SGB)は頸部交感神経節を一過性に遮断することで、支配領域の組織血流量を増加させ、同領域の疼痛あるいは麻痺性疾患を改善する治療法であり、三叉神経ニューロパチーに対する治療法として最も効果が高いことが先行研究で示されている。SGBによる交感神経遮断効果は組織血流量の増加時間と比例するため、交感神経遮断時間すなわち組織血流量増加時間はSGBの治療効果に影響することが予測される。しかし両者の関係について検討した報告はない。そこで本研究では外科的矯正手術後の三叉神経ニューロパチー患者を対象として、異なる作用時間の局所麻酔薬でSGBを施行し、交感神経遮断時間と治療効果について検討した。	
【方法】 外科的矯正術を受ける全患者に術前に感覚検査(電流知覚閾値検査、精密触覚機能検査、温冷覚検査)を実施し、術後同検査で三叉神経ニューロパチーと診断され、SGBによる治療を希望した28名(52神経)を対象とした。研究は二重盲検法で行い、対象をメピバカイン投与群(Mepi群)とレボブピバカイン投与群(Levo群)に無作為に割り付けた。SGBは超音波ガイド下で行い、各局所麻酔薬を5ml注入した。またSGB前をbaselineとして交感神経遮断の指標である顔面部血流量、皮膚温ならびに示指の灌流指数を経時的に測定した。感覚検査をSGB開始10日後、術後3ヶ月後に再度実施した。	
【結果】 Mepi群に比較してLevo群は交感神経遮断時間が有意に長く、感覚検査の全項目においてSGB開始10日後から有意に数値が改善していた。	
【考察】 メピバカインに比較して作用持続時間が長いレボブピバカインをSGBに用いることで、交感神経遮断時間が延長した。このため組織血流量の増加も長時間持続し、神経再生が促進された結果、より早期に良好な神経機能回復が得られたと考えた。	
【結語】 SGBによる交感神経遮断時間が延長させると、三叉神経ニューロパチーの治療効果が改善する可能性が示された。今後、本研究結果の広範な適用性を判断するため、他のSGB適応疾患を対象にさらなる研究が必要である。	